

土づくりコンソーシアムへの期待

一般財団法人日本土壌協会会長

まつもと さとし
松本 聡氏



世界の土壌問題（塩類集積土壌、土壌荒廃による砂漠化等）を専門分野とされているのみならず、土壌中の微生物分析技術等、最近の土づくりの動向にも造詣が深い。日本土壌肥料学会名誉会員、東京大学名誉教授。日本土壌肥料学会賞、環境保全功労賞等を受賞。

生産現場において、土づくりの重要性に向けた新たな、そして具体的な行動が動き出している。それは、土を持続可能な開発目標物質に置くと共に、土づくりの具体的な実施者として農業生産者を位置づけ、一方で、コンソーシアムが土壌データの収集・蓄積・利用を通じて彼らに具体的な実践の場を提供し、そして同時にそれらを共有することによって、国民の共通社会資本としての土の存在を高揚するものである。

京都大学大学院農学研究科教授

まとう とおる
間藤 徹氏



1977年（昭和52年）京都大学農学部農芸化学科卒業、2006年京都大学農学研究科教授に就任、2015年～2017年日本土壌肥料学会会長、植物のホウ素栄養に関する研究を専門分野とし、京都市内の生産者の土壌診断や講習など生産現場における土づくりの取組にも造詣が深い。

農業技術が進歩し、少数の農業生産者が全世界の人々に食料を供給できるようになり、食料生産から解放された多くの人々はさまざまな活動を行うことができるようになりました。農業生産者がプライドとやり甲斐を持って農業に取り組めるよう、この土づくりコンソーシアムを通して、農業と土壌の重要性を訴えていきたいと思っています。